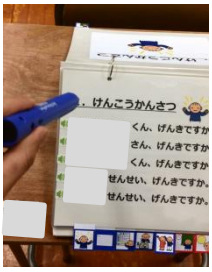
教材・支援機器活用実践事例
【ボイスペンを活用し、発語が困難な生徒が積極的に学習に取り組むことができるようにした工夫】

<table>
<tr><td></td><td>実施年度</td><td>平成２９年度</td></tr>
<tr><td rowspan="4">授業について</td><td>教科名等</td><td rowspan="2">日常生活の指導
「朝の会」</td></tr>
<tr><td>単元・題材名</td></tr>
<tr><td>授業における教師のねらい</td><td>発話の難しい生徒が、伝える意欲を高め、自信をもって自分で朝の会を進めようとする姿</td></tr>
<tr><td>授業における子どもの目標</td><td>代替コミュニケーションツールとしてのボイスペンを使って音声で表出し、自分で朝の会を進めることができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">子どもについて</td><td>学校・学級・学年</td><td>特別支援学校　重複障がい学級　中学部</td></tr>
<tr><td>対象の障がい</td><td>自閉症を伴う知的障がい</td></tr>
<tr><td>授業の形態</td><td>小集団学習</td></tr>
<tr><td>学習上または生活上の困難さ</td><td>子どもの特性や教育的ニーズ</td><td>対象生徒は、内言語はもっているものの、発語が難しいため、主に絵や写真カードなどの視覚的な教材を通して、自分の気持ちや要望を周囲の人に伝えるように学習しているところである。これまで、朝の会の進行に関しては、進行表を利用して、対象生徒が発話文を指差し、教師が代弁していた。進行表の内容は理解しており、教師が代弁し終わると、次の発話文を指差すことができ、順序も間違えることなく正確であった。しかし、教師が代弁することによって、教師主導の朝の会になりがちであった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教材・支援機器活用</td><td>使用した支援機器・教材の名称</td><td>「ボイスペンで朝の会を進めるもん」

 
 </td></tr>
<tr><td>活用のねらい</td><td>対象生徒が代替コミュニケーションツールとして、ボイスペンを使って音声で表出することで、直接相手に伝えることの喜びを感じ、さらに、自分が朝の会を進めているという自信をもち、主体的に朝の会を進めることができる。</td></tr>
<tr><td>授業における支援・教材の配慮</td><td colspan="2">・ボイスペンを垂直にあてるように、土台を作り、傾きを調整した。
・めくりやすいようにインデックスを追加し、また、当番以外の生徒が現在の進行内容が分かるように、１枚ずつ裏にイラストを付けた。</td></tr>
<tr><td>子どもの変容や評価</td><td colspan="2">ボイスペンを導入することで、自分のペースで進行できるようになった。現在では、朝の会をとても楽しみにしており、自ら椅子に座って準備して待つ姿も見られるようになってきた。さらに、他の生徒にも良い影響を及ぼし、以前は「起立」と教師が代弁しても、なかなか立たなかったのが、ボイスペンの音声で聞くと、一斉に立つようになってきた。また、ある生徒は、対象生徒が朝の会を進行し終えると、拍手して称賛する様子も見られた。ボイスペンを通して、主体的に朝の会を進めるだけでなく、他の生徒との関わりをさらに促進できる効果がでてきた。</td></tr>
</table>